2022年度 調査研究助成　公募のお知らせ

環境問題・社会問題の現場で
市民や若手研究者が取り組む調査研究を
助成します

助成総額: 600万円　応募期限: 2022年５月13日

高木仁三郎市民科学基金(高木基金)は、「市民科学者」として、核・原子力の問題に力を尽くした高木仁三郎（1938−2000）の遺志に基づいて設立され、「市民科学」を志す市民や若手研究者への助成を行っています。

困難な課題が山積する現代において、特に、科学技術の負の側面や、持続可能で公正な社会の実現の妨げとなっている政策などについて、批判的に分析し、解決の道を探ることが「市民科学」の役割だと高木基金は考えています。

【助成対象】　「市民科学」の考え方に基づく調査研究であれば分野・テーマは問いません。

【助成期間】　2022年8月～2023年7月

【応募方法】　ウェブサイトから応募登録をした上で期限までにE-mailでご応募ください。

【応募期限】　2022年5月13日（金）午後9時

※お問い合わせ、事前相談は、E-mailで受け付けています。

高木基金は、2021年9月に法人設立20周年を迎えました。設立以来の助成事業の財源は、すべて一般の方からの会費・寄付に支えられています。次世代の「市民科学者」を応援していくために、高木基金へのご支援をよろしくお願いいたします。

郵便振替口座　00140-6-603393 加入者名　高木仁三郎市民科学基金

※ 高木基金は認定NPO法人です。高木基金へのご支援は、寄附金控除の対象となります。

認定NPO法人
高木仁三郎市民科学基金

URL: http://www.takagifund.org
E-mail: info@takagifund.org

高木仁三郎市民科学基金（高木基金）は、生涯をかけて、原子力時代の一日も早い終焉を目指し、2000 年 10 月に 62 歳でこの世を去った「市民科学者」、高木仁三郎の遺志により設立されました。高木仁三郎は自分の遺産を元に基金を設立し、彼の生き方に共鳴する多くの人から広く寄付を募って、次の時代の「市民科学者」をめざす個人やグループに対し資金面での奨励・育成を行ってほしいとの遺言を残しました。

● 高木基金の目的

高木基金の目的は、現代科学がもたらす問題や脅威に対して、専門的考察に裏付けられた批判を行える「市民科学者」を育成・支援することです。

未来を切り拓く科学は、政府や産業界の出資と管理のもとで進められる科学者の職業的営みからではなく、真の公共性、公益性を体現した市民の自発的活動の中からこそ生まれてくるはずだという期待を込めて、高木基金では、NPO・NGOや市民グループで活動しながら「市民科学者」をめざす人を積極的に応援したいと考えます。

高木仁三郎の生涯（1938－2000）
…脱原発の核化学者・市民科学者として…

高木仁三郎は1945年、小学一年生で敗戦を体験しました。彼は少年時代、日本人の思考や行動の非科学性が、あの無謀な戦争へと日本を駆り立てたという主張に子供心に納得し、科学に未来の夢を描き、長じて核化学を専攻しました。

日本の原子力産業の黎明期にその開発事業の研究所に入り、後に大学で研究に従事して、62年の人生の40年以上を「核」と共に歩みました。最初の三分の一は体制内研究者、残りの三分の二は独立した批判を行う市民科学者として活動しました。1973年に35歳で大学を辞し、一市民として「自前（市民）の科学」をめざし始めました。

1999 年 1 月、高木学校連続講座にて

原子力利用はその出発から民主主義社会とは相容れないこと、放射能制御は人間の能力を超えることを指摘し、原子力発電を、とりわけプルトニウムの利用を鋭く批判しました。

原子力の情報が、政府、原子力産業・電力会社等の推進側に独占されていることを批判し、その公開を強く求めました。市民の側から、科学的裏付けに基づいて原子力の危険性をわかりやすく解説し、市民が本当に必要とする情報を提供する非営利組織「原子力資料情報室」の設立・運営に力を尽くした彼は、現在の巨大科学のあり方を根本から批判しました。

このような彼の活動に対して、「プルトニウムの危険性を世界の人々に知らしめ、また情報公開を政府に迫って一定の効果を上げるなど、市民の立場にたった科学者として功績があった」として、1997年に「もうひとつのノーベル賞」と呼ばれるライト・ライブリフッド賞が授与されました。

その賞金をもとに彼は、1998年に市民科学者を育てる「高木学校」を開校しましたが、その矢先に大腸癌が発覚、癌治療の傍ら市民科学に取り組む後進の育成にあたりました。しかし、癌の進行は早く、2000年夏には活動の続行は不可能になり、高木基金の設立を遺言に残しました。彼は核化学者と市民のはざまに引き裂かれ、悩みながらも、核のない世の中の実現にその生涯を捧げ、行動し続けました。

人から人へ、世代から世代へ、あきらめずに、同じ志を持続すること。それが理想を現実に変える力となり、現実を変えることができる、と高木仁三郎は信じていました。彼は、その志を持続させる原動力が「希望」だと考えました。

「生きる意欲は明日への希望から生まれてくる。反原発というのは、何かに反対したいという欲求でなく、よりよく生きたいという意欲と希望の表現である」（岩波新書『市民科学者として生きる』より）との言葉に、高木仁三郎の思いが凝縮されています。

● 市民科学とは

「市民科学」の課題は、高木仁三郎によれば、「未来への希望に基づいて科学を方向づけ、持続可能な未来を築くための構想を提示し、人々の心に希望の種を播き、組織し、変革への流れを生むこと」です。「市民科学」は、市民社会が実際に直面する不安や問題から出発し、その成果も市民の評価に委ねられます。

「市民科学者」という表現には、学術研究を職業とする者だけが科学者なのではなく、市民が科学知識と批判力を自分たちのものにする必要があるという考えが込められています。「市民科学」は、市民の立場に立ちつつ、市民の知を、専門性を持って市民の側から組織していくことをめざします。科学の暴走をくい止め得るのは、まさにそうした「カウンター・エキスパート」としての市民に他ならないでしょう。

地球市民としての自覚のもと、科学的知識と考察に裏付けられた構想力と想像力を備え、独立した批判を行える人が、「市民科学者」です。

「市民科学者」には、次のような役割が期待されます。

1) 現代の科学技術が、人々の生存と地球環境への脅威となっていることを認識し、市民と不安を共有する立場からこれを批判し、対抗的な評価を提起すること。
何が脅威であるかを明らかにし、それを取り除くための調査・研究を進めること。
2) 自ら市民として、常に生活者の感覚や視線でものを見ることに基盤におきながら、科学技術の問題にアプローチすること。
3) 最終的な政策決定者は市民であるという立場から、市民との密接な相互作用を通して、市民の判断材料となる情報を提供し続けること。
政府や産業側の科学技術情報を批判的に解読し、その情報がどのような意味や影響を持つのかを、市民に理解可能なかたちで伝えること。
4) 現代における科学技術の選択が、将来の世代にどのような負担をもたらすかを常に吟味し、世代間倫理に基づく問題提起を行うこと。

● 高木基金の助成の視点

高木基金が助成する調査研究は、前記の「市民科学」の実践として、次の要件を満たすことが望まれます。

- 市民社会や地球環境の脅威となる科学技術や、それに関わる公共政策の問題点等を批判的に検証するもの。
- 専門性に裏付けされた想像力と構想力を持ち、調査研究の方法や実施計画、予算などが合理的であるもの。
- 調査研究の成果を、市民社会に還元する方法や、市民とともに、政策転換を求める道筋などを具体的に展望しているもの。
- 今回の調査研究のみにとどまらず、将来にわたって、市民科学者を目指して努力していく意志を持っているもの。

なお、限られた財源の中で、「市民科学」にふさわしい調査研究を重点的に助成するため、**次のような申請は助成対象としない場合がありますのでご注意下さい。**

・公的な助成金や、企業などから十分な支援が得られると思われる内容・水準のもの
・相当の規模や実績を持ち、独自の資金調達で活動ができると思われる団体からのもの
・外部の研究者への委託研究を主体とするもの
・キャンペーン活動、映像等による記録、情報発信等を主とした活動（過去には、助成の対象としていましたが、今回は、具体的な調査研究活動を優先します）

高木仁三郎市民科学基金 第21期(2022年度)国内枠助成の応募方法

<table>
<tr><td rowspan="5">助成予算・助成対象者</td><td colspan="3">・助成予算の総額は600万円とします。
・1件あたりの助成金額は、高木基金からの過去の助成実績に応じて、以下の通りとします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">過去の助成実績に応じた分類</td><td>助成上限金額</td></tr>
<tr><td>一般</td><td>高木基金にはじめて応募する、あるいは高木基金から過去に1回、助成を受けた実績のある個人・グループ</td><td>100万円</td></tr>
<tr><td>継続</td><td>高木基金から2回以上の助成を受けた実績のある個人・グループ</td><td>50万円</td></tr>
<tr><td colspan="3">・グループ・団体での応募の場合、法人格の制限はありません。任意団体や一般の市民グループも助成の対象となります。
・大学や研究機関などに所属し、科学研究費などの獲得が可能な方からの応募も受け付けますが、選考に際しては、そのような研究費の獲得が難しい課題の応募を優先します。
・2021年度までは、「若手研究支援枠」を別に設定していましたが、今回の募集では、若手研究者の助成応募も一括して受け付けます。</td></tr>
<tr><td>「市民科学」の考え方と助成のテーマ性・助成選考の視点</td><td colspan="3">・近年、「市民科学」という言葉は幅広い意味で使われており、市民参加による環境・社会調査などを一般的に「市民科学」と称することもあるようですが、高木基金の考える「市民科学」は、より明確な問題意識に基づいています。すなわち、高木基金は、現代の科学技術や公共政策が、市民社会や地球環境の脅威となっているような問題について、<u>不安を抱える市民の立場にたち、行政や企業のあり方などを批判的に検証する</u>ことを通じて、問題の解明を試み、解決への道筋を探るような取り組みを「市民科学」と位置づけ、この考え方に沿う調査研究を助成対象とします。
・特に現代の科学技術や公共政策の選択が、限られた地球資源の浪費・喪失や気候危機、汚染物質の排出などにより、将来の世代に大きな負担をもたらすという世代間倫理の視点を重視します。
・「市民科学」の考え方に基づくものであれば、調査研究のテーマは限定しません。
・助成選考においては、今回応募の調査研究に限らず、将来にわたり、「市民科学」を実践していこうとする意欲と姿勢を重視します。
・『市民科学者として生きる』（岩波新書）などの著作を読み、高木仁三郎の目指した「市民科学」への理解を深めた上で応募してください。過去の助成実績についても、高木基金のウェブサイトに掲載していますので参考にしてください。</td></tr>
<tr><td>助成対象期間</td><td colspan="3">・原則として2022年8月～2023年7月の間に実施される調査研究を対象とします。
・3年程度の長期的な計画に基づいて調査研究を実施するものも助成の対象とします。
その場合は、全体の計画とともに当初の1年間の調査研究計画を示してください（助成選考は1年ごとに行います）。</td></tr>
<tr><td>申込み方法</td><td colspan="3">・高木基金のウェブサイトの専用フォームから応募登録を行うとともに、助成申込書のファイルをダウンロードし、必要事項を入力の上、メールの添付ファイルで送信してください。</td></tr>
<tr><td>募集期間</td><td colspan="3">・2022年4月18日～5月13日午後9時</td></tr>
<tr><td>事前相談</td><td colspan="3">・正式の応募前に、希望に応じて事務局が事前相談を受け付けます。高木基金に初めて応募をする方は、事前相談を利用することを推奨しています。ご希望の方は、助成申込書の下書きを作成した上で、5月6日までに、事務局（ info@takagifund.org ）にメールで申し込んでください。募集期間終了間際の事前相談には対応ができない場合があります。</td></tr>
<tr><td>選考のながれ</td><td colspan="3">・選考委員会で書類選考を行い、結果を2022年6月末頃までに応募者全員に通知します。
・書類選考通過者には、最終選考の一環として開催する公開プレゼンテーションに参加し、自らの調査研究計画を発表していただきます。
・公開プレゼンテーションは、2022年7月下旬に都内会場＋オンラインで開催する予定です。
ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催方法を変更する場合があります。
・なお、「市民科学」に関わる新しい課題を発掘する観点から、過去に助成を受けた調査研究を継続する内容の応募については、理事会の判断で、公開プレゼンテーションでの発表を省略することがあります。また、書類選考通過者が公開プレゼンテーションの当日に参加できない場合など、別の日程で、高木基金の理事による面接を行う場合があります。
・公開プレゼンテーションでの発表・質疑応答等を踏まえ、高木基金の理事会で助成先の最終決定を行い、2022年7月31日までに助成先および助成金額を発表します。</td></tr>
<tr><td>問い合わせ</td><td colspan="3">その他、不明の点などについては、info@takagifund.org にメールでお問い合わせください。</td></tr>
</table>

※ 高木基金の助成金は、活動の趣旨に賛同して下さる一般市民からの会費や寄付に支えられています。助成先となったみなさんには、調査研究活動を通じて、高木基金の理解者・支援者を広げていく活動にもご協力をお願いいたします。